



アニメ聖地巡礼

サブカルチャー
遺産の現在



2019
11/15 金

18:30~20:40 (17:30開場)

[場 所] **日経ホール**
東京都千代田区大手町 1-3-7 日経ビル 3F

[定 員] **600名** (要事前申込み/先着順)

[参加費] **無料** ※手話通訳あり

概要説明

「遺産観光におけるバーチャリティ」
飯田 卓 (国立民族学博物館)

講演2

「アニメのある景観
—中国地域の客家文化継承をめぐって」
河合 洋尚 (国立民族学博物館)

講演1

「聖地巡礼のラビリンス
—現代日本における旅・キャラクター・物語」
川村 清志 (国立歴史民俗博物館)

パネルディスカッション

川村 清志 × 河合 洋尚
司会: 飯田 卓



人文社会科学に先んじて、地域振興を進める内閣府や経済産業省、地方自治体が注目してきたクール・ジャパン。日本では、地域と強く結びついたアニメを観光資源に用いる「聖地巡礼」も、クール・ジャパンの潮流のなかで始まりました。しかし、日本から離れて海外の事例に目を向けると、同様の現象はどのような意味を帯びているのでしょうか。また、アニメをはじめとするポピュラー・カルチャーの流行サイクルの速さと、息長く持続させるべき観光振興は、はたして相性がよいといえるのでしょうか。文化や文化遺産の問題を地域の問題として考えてきた人類学者・民俗学者が、聖地観光の意味を考えます。

プログラム

- 17:30 開場
- 18:30 開会 **藤井 達郎**
(日本経済新聞社常務執行役員・大阪本社代表)
- 18:35 挨拶 **吉田 憲司**(国立民族学博物館・館長)
- 18:40 概要説明 **飯田 卓**(国立民族学博物館・教授)
- 19:00 **講演1** **川村 清志**(国立歴史民俗博物館・准教授)
- 19:25 **講演2** **河合 洋尚**(国立民族学博物館・准教授)
- 19:50 休憩
- 20:05 **パネルディスカッション** **川村 清志 × 河合 洋尚**
司会：**飯田 卓**
- 20:40 終了

申込方法

申込フォームの場合

国立民族学博物館

クリック

国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

<http://www.minpaku.ac.jp/>



往復はがきの場合

往信の宛名面

返信の文面

返信の宛名面

往信の文面

〒565-8511
吹田市千里万博公園10番1号
国立民族学博物館 研究協力課

ご自分の住所・氏名

- ①郵便番号
- ②住所(返信用宛名面にも)
- ③年齢(任意)
- ④電話番号
- ⑤参加者氏名・ふりがな(本人を含め5名まで)
- ⑥11月15日 公開講演会

往信面に下記①から⑥と返信面に申込者の住所・氏名をご記入のうえご応募ください。 ※申込締切日 11月8日(金) 往復はがき: 消印有効

①郵便番号 ②住所(返信用宛名面にも) ③年齢(任意) ④電話番号 ⑤参加者氏名・ふりがな(本人を含め5名まで) ⑥11月15日公開講演会

【宛先】〒565-8511 吹田市千里万博公園10番1号 国立民族学博物館 研究協力課

※参加申込みされた方の個人情報は本講演会のみで使用いたします。

◆お問い合わせ先: 国立民族学博物館 研究協力課 TEL: 06-6878-8209 FAX: 06-6878-8479 E-Mail: koenkai@minpaku.ac.jp

概要説明 「遺産観光におけるバーチャリティ」



飯田 卓
Taku Iida
国立民族学博物館 教授

講演要旨

テーマ設定のきっかけとなった「文化遺産の人類学」について述べたあと、この分野が直面する課題として、不可視の実践の問題を提起する。すなわち、インターネット上でおこなわれる不可視のコミュニケーションとその表面化のプロセスを、どのように把握すればよいのか。この問題に関わって、総合討論では文化の概念についても議論する。

プロフィール

有形のものを修復によって保存するという従来の文化遺産学をのり越え、人びとの実践の反復によって有形無形の文化を次世代にひき継ぐという「文化遺産の人類学」を提唱している。著書に「海を生きる技術と知識の民族誌—マダガスカル漁撈社会の生態人類学」(2008年、世界思想社)、編著に「文明史のなかの文化遺産」(2017年、臨川書店)などがある。

講演1 「聖地巡礼のラビリス —現代日本における旅・キャラクター・物語—



川村 清志
Kiyoshi Kawamura
国立歴史民俗博物館 准教授

講演要旨

アニメや漫画の舞台となった場所を巡る「聖地巡礼」は、2000年代以後に大きく展開する。聖地の中には、地方の自治体や企業を巻き込み、国際的な観光地に成長する一方で、ファンと地域社会が物語を超えた新たな関係性を築くケースもみられる。地域社会の実情に対応した関係性の深化に注目しながら、聖地の現在を考えていきたい。

プロフィール

学術博士。日本の祭礼や民俗芸能を中心に、フィールドワークに基づく研究を続けてきた。メディアによる文化表象への関心から映像文化の批評やドキュメンタリー制作も行う。主な作品に「明日に向かって曳け—石川県輪島市皆月山王祭の現在」(DVD監督、2016年)、「石川県輪島市山王祭フォトエスノグラフィ—準備編」(川村清志・倉本啓之編、2018年)などがある。

講演2 「アニメのある景観 —中国地域の客家文化継承をめぐる—



河合 洋尚
Hironao Kawai
国立民族学博物館 准教授

講演要旨

最近、台湾や中国本土では、景観デザインにアニメ・キャラクターをとり入れるという、新たな動きがみられる。この動きは、民族の文化遺産が失われるという危機と深くかかわっている。中華圏ではアニメはどのようにとらえられているのか。アニメを景観デザインとして使うことでどのような効果が期待されているのか。客家と呼ばれる人々を事例として、この問いに答えていきたい。

プロフィール

中国南部における文化的景観の創出について、人類学の視点から調査研究を行っている。近年は環太平洋の漢族、なかでも客家と呼ばれる集団を調査の対象としている。著書に「景観人類学の課題—中国広州における都市環境の表象と再生」(2013年、風響社)、「客家—歴史・文化・イメージ」(2019年、現代書館)などがある。

講演会場



- 東京メトロ
 - ・千代田線「大手町駅」神田橋方面改札より徒歩約2分
 - ・丸ノ内線「大手町駅」サンケイ前交差点方面改札より徒歩約5分
 - ・半蔵門線「大手町駅」皇居方面改札より徒歩約5分
 - ・東西線「大手町駅」中央改札より徒歩約9分
 - 「竹橋駅」4番出口より徒歩約2分
- 都営地下鉄
 - ・三田線「大手町駅」大手町方面改札より徒歩約6分
 - 地下鉄「大手町駅」下車C2b出口直結